

## 予 算 要 求 資 料

令和 7 年度 3 月 補正 予算

支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：畜産振興費

### 事業名 酪農振興対策支援事業費（国補正分）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 畜産振興課 酪農・飼料係 電話番号：058-272-1111(内4139)

E-mail：c11437@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 6,072 千円 (現計予算額：0 千円)

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	6,072	750	0	0	0	0	0	0	5,322
決定額									

## 2 要 求 内 容

### (1) 要求の趣旨（現状と課題）

過去 5 年間（R3～R7）で酪農家戸数は約 20 戸減、飼養頭数は約 500 頭減と大幅に減少し、県内の生産基盤の維持が困難になっている。一方で、県内産牛乳の需要は高く、需要の高まる 6～9 月には、生乳供給が不足し、学校給食用牛乳を 100% 県内産で供給することが出来なくなる恐れがある。そこで、県内生乳生産量の維持拡大のため、乳用牛の増頭対策、酪農家の経営改善を図る対策を行う必要がある。

また、近年、生産費の上昇を受け、乳価（生乳の買取価格）への価格転嫁が行われているが、値上げによる牛乳・乳製品の消費減退が不安視されるため消費拡大対策が進められている。

消費者へ牛乳という飲み物を訴求する中であって、近年「おなかがゴロゴロしにくい」という A2 ミルクが登場した。新たな消費者層へ牛乳の選択肢を広げるため、A2 ミルクを産生するのに必要な遺伝子を保有する乳用後継牛の効率的な確保を支援する必要がある。

### (2) 事業内容

#### ① 牛群検定・酪農ヘルパー支援事業【継続】

乳用牛の改良や飼養管理の改善を目的とした乳用牛群検定事業、酪農経営の安定化を目的とした酪農ヘルパー事業などに要する経費の一部を補助する。

#### ② 効率的乳用後継牛確保対策支援事業【拡充】

A2 ミルクを産生する乳用牛を確保するため、A2 遺伝子を保有する雌雄判別技術を活用した場合に、その経費の一部を補助する。

#### ③ 乳用初妊牛増頭対策支援事業【継続】

増頭を図る酪農家に対し、乳用初妊牛の導入経費の一部を補助する。

**(3) 県負担・補助率の考え方**

補助率 1 / 2 以内

効率的な生乳生産を推進し、本県の酪農経営の安定化を図るため。

**(4) 類似事業の有無**

無

**3 事業費の積算 内訳**

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	6,072	・牛群検定・酪農ヘルパー支援事業：1,072千円 ・効率的乳用後継牛確保対策支援事業：1,500千円 （対象頭数100頭 1頭当たり補助額15千円） ・乳用初妊牛増頭対策支援事業：3,500千円 （対象頭数70頭 1頭当たり補助額50千円）
合計	6,072	

**決定額の考え方**

--

**4 参考事項**

**(1) 各種計画での位置づけ**

- ・ぎふ農業活性化基本計画（仮称・令和8年3月策定予定）（目標年度R12）
- ・岐阜県家畜改良増殖計画（目標年度R12）
- ・岐阜県酪農・肉用牛生産近代化計画（目標年度R12）

**(2) 国・他県の状況**

国：牛群検定に参加している酪農家等に対し、性判別精液及び調整交配用精液の利用により乳用種の雄子牛が生産された場合に支援金を交付している。

**(3) 後年度の財政負担**

本県の酪農経営基盤を強化するため、今後も引き続き実施する必要がある。

**(4) 事業主体及びその妥当性**

**① 牛群検定・酪農ヘルパー支援事業**

岐阜県酪農農業協同組合連合会は、乳用牛群検定事業等の窓口団体であることから、当該事業を実施するに妥当である。

## 県単独補助金事業評価調書

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

### (事業内容)

補助事業名	酪農振興対策支援事業費
補助事業者(団体)	市町村・農協・岐阜県酪農農業協同組合連合会 (理由) 市町村、農協連は地域の酪農振興に携わることから、当該事業を実施するのに妥当である。
補助事業の概要	(目的) 酪農経営の安定に資すること。 (内容) 乳用牛群検定及び後代検定の推進 ヘルパー利用の負担軽減 A2遺伝子を保有する乳用後継牛確保の推進 乳用初妊牛の増頭を推進
補助率・補助単価等	定額 (内容) 牛群検定・酪農ヘルパー支援事業【補助率：1/2以内】 ただし上限については以下のとおり 生乳検査費…AT法100円/件、通常法 75円/件 調整交配推進指導費…上限5,000円/人 検定娘牛保留・育成推進指導費…上限4,500円/人 検定娘牛分娩調査費…上限4,500円/人 検定娘牛計画交配費…上限6,000円/頭 ヘルパー出役費…上限750円/日 効率的乳用後継牛確保対策支援事業【補助率：1/2以内】 ただし上限については15,000円/頭 乳用初妊牛増頭対策支援事業【補助率：1/2以内】 ただし上限については50,000円/頭 (理由) 乳用初妊牛増頭対策支援事業は北海道導入と県内導入(東濃牧場の譲渡価格値上げ後(R5.6))との経費差について助成
補助効果	酪農経営の安定、乳用経産牛頭数の維持
終期の設定	終期令和12年度 (理由) 令和2年度に策定した、岐阜県家畜改良増殖計画及び岐阜県酪農・肉用牛生産近代化計画における令和12年度の経産牛頭数3,300頭を目標とし、事業を実施するため。

### (事業目標)

・終期までに何をどのような状態にしたいのか	
○令和12年度を目標年度とする。	
・県内生乳生産量 31,000 t	・経産牛頭数 3,300頭

### (目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (H26末)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R12)	達成率
①県内生乳生産量	44,092	30,258	31,000	31,000	31,000	98%
②経産牛頭数	4,860	3,154	3,300	3,300	3,300	96%

補助金交付実績 (単位：千円)	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	10,123	10,291	6,330	6,330	6,747

(これまでの取組内容と成果)

令和4年度	学校給食用牛乳を100%県内産とすることができた。
	指標① 目標：31,000 実績：31,999 達成率：103 % 指標② 目標：3,300 実績：3,497 達成率：106 %
令和5年度	学校給食用牛乳を100%県内産とすることができた。
	指標① 目標：31,000 実績：30,222 達成率：97 % 指標② 目標：3,300 実績：3,289 達成率：99 %
令和6年度	学校給食用牛乳を100%県内産とすることができた。
	指標① 目標：31,000 実績：30,258 達成率：98 % 指標② 目標：3,300 実績：3,154 達成率：96 %

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 2	県内の生乳生産量は年々減少傾向であり、牛乳の需要期には、生乳の供給量がひっ迫することもあり、引き続き生乳の増産に向けた取り組みが必要である。
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</p>	
(評価) 2	既存農家の増頭は行われているが、それを上回る廃業のため、飼養頭数の増頭が伸び悩んでいる。
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 2	平成27年度から、2つの継続事業及び新規事業をまとめ、本事業とし効率化を図った。

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 酪農家戸数の減少及びそれに伴う生乳生産量も減少傾向が続くことが予想されるが、生乳生産量を確保するために、酪農家の経営安定を図る必要がある。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 乳用牛の泌乳能力を十分に引き出し、確実かつ効率的な後継牛を確保していくとともに、増頭意欲のある酪農家を支援していく。</p>
--